

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	化学基礎	2	1	化学基礎	インプレス 化学基礎ノート

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を養う。
到達目標に向けての具体的な取組（指導上の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> 化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。また、物質の構成粒子を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。 物質の性質や変化を観察、実験などを通して探究し、物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。 酸と塩基の反応、酸化還元反応を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や法則を理解できるようにする。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	1章 物質の構成 1節 物質の探求	<ul style="list-style-type: none"> 物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを学習する。また、物質の三態変化が熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月	2節 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 元素について学習し、同素体の存在を理解する。 原子の構造について理解する。 元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 	
6月	2章 物質と化学結合 1節 イオンとイオン結合	<ul style="list-style-type: none"> イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶、イオン結晶の利用を理解する。 	
7月	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合	<ul style="list-style-type: none"> 分子の形成について学習し、分子からできる物質、さらに分子結晶、共有結晶について理解する。また、分子からなる物質の利用についても学習する 金属結合、金属結晶について理解し、金属の利用を学習する。 化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解する。 	
8月	3章 物質の変化		
9月	1節 物質と化学反応式	<ul style="list-style-type: none"> 元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質とその応用を理解する。 物質の溶解と濃度について学習する。 	
10月		<ul style="list-style-type: none"> 状態変化と化学変化の違いを理解し、化学反応式のつくり方とその応用を学習する。また、化学の基本法則を学ぶ。 	
11月	2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の種類を学習する。 	
12月		<ul style="list-style-type: none"> 中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 	
1月	3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> 酸化・還元の定義を理解する。 	
2月		<ul style="list-style-type: none"> 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 	
3月		<ul style="list-style-type: none"> 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 酸化還元反応の利用例として、製錬や電池の原理を学習する。 	

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	生物基礎	2	1	数研出版 生物基礎	第一学習社 スクエア最新図説生物 数研リト'α 生物基礎

到達目標	<p>1 さまざまな事例を通して、自然と生物に対して関心を持ち、理解を深める。</p> <p>2 観察や実験を通して探究する能力と科学的に考える態度を身につける。</p> <p>3 基本的な内容を理解し、さらに応用力を身につける。</p>
到達目標に向けての具体的な取組	<p>自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する科学的な態度を身に付けるために、演示実験や生徒実験を多く取り入れる。また、日常生活で体験することとの関連する具体例を示すことにより、生徒の理解の助けとなるよう努める。自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識として身に付くよう図る。</p> <p>また最先端の遺伝子の本体、DNAの構造の追求も行う。</p>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	生物の共通性と多様性	<p>「生物基礎」について、学習の目標や内容、学習方法、評価方法を理解する。</p> <p>細胞が生命の単位であることについて、いろいろな事例を通して学習し理解する。</p> <p>核や細胞質の働き及び構造体の形態を観察などの探究活動を通して理解し、細胞が生命活動の基本の場となっていることを理解する。</p> <p>遺伝子の存在の仮定から遺伝子の本体であるDNAの構造の解明に至るまでを学習し、塩基の配列とその相補性および二重らせん構造の意味を理解する。</p>	<p>定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物</p>
5月	細胞とエネルギー		
6月	遺伝情報とDNA		
7月	遺伝情報の分配		
8月	遺伝情報とタンパク質の合成	<p>生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとして様々な働きを示していることを理解する。</p> <p>恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液の働きについて理解する</p> <p>体内環境の維持のため、肝臓や腎臓の働きの重要性を理解し、恒常性の維持がいかに大切かを追求する。</p> <p>生体防御としての免疫機構がいかに複雑で、また、それぞれの担う役割がいかに生体内で適切に働いているのかを理解する。</p>	
9月	体内環境と恒常性		
10月	体内環境の維持の仕組み		
11月	免疫		
12月			
1月	生物の多様性と生態系	<p>自然界のグローバルな視点から、バイオームの概念を理解する。</p> <p>地球上には様々な環境の違いにより、それぞれの場所に適した植物が生育していることを、水平分布と垂直分布の違いを示しながら、理解する。</p> <p>生物の食物連鎖を通して、生態系のバランスやエネルギーの流れと窒素や炭素の物質循環の違いなどを学習し、地球規模の生態系の大きな見方を理解する。</p>	
2月	生態系とその保全		
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	物理基礎	3	2	物理基礎（東京書籍）	必修アクセス物理基礎 （浜島書店）

到達目標	1. 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。2. 物理的な事物・事象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。3. 科学的な自然観を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	物理的な事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する科学的な態度を身に付けるために、演習実験や生徒実験を多く取り入れる。また、日常生活で体験することとの関連する具体例を示すことにより、生徒の理解の助けとなるよう努める。基本的な概念や原理・法則が理解できた段階で、徹底的な演習により、その定着を図る。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	運動の表し方	変位、速度、加速度などの運動の表し方	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月		相対速度や速度の合成	
6月		自由落下運動	
7月	力	自由落下や鉛直投げ上げ運動の「時間」「速度」「位置」の関係	
	運動の法則	水平投射運動や斜方投射運動	
		重さと質量、フックの法則、力の性質、作用反作用の法則の理解	
		摩擦力、抵抗力、浮力	
8月	運動とエネルギー	慣性の法則、運動の法則	
9月	熱とエネルギー	エネルギーと仕事と仕事率	
10月		運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存	
11月	波の性質	物質の三態や温度、熱容量や比熱	
12月	音と振動	熱力学第一法則、熱機関	
		波とは、媒質の振動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であることを理解する。	
		波の式、横波と縦波、波の反射。定常波	
		うなり、気柱の共鳴や共振	
1月	音と振動	波の重ねあわせ、ドップラー効果	
2月	電流の流れ方	摩擦電気、電流と電気量	
3月	電気の利用	オームの法則	
		金属の抵抗率	
		電力・電力量やジュールの法則	

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	化学	2	2年	化学	ニューグローバル 化学基礎+化学

到達目標	化学的な事象・現象についての観察・実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	<p>①気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、化学結合の概念や物質の構造を理解する。</p> <p>②反応熱、酸化還元反応を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や法則を理解するとともに、化学反応をエネルギーの出入りと関連付けて考察できるようにする。 また、反応速度と化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応を平衡と関連付けて理解する。</p> <p>③無機物質の性質や変化を観察、実験などを通して探究し、物質の代表的な性質及び反応について理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。</p>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	第1部 物質の状態と平衡 第1章 物質の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化と熱の関係について理解する 粒子間にはたらく引力について理解する 気液平衡の概念を理解し、蒸気圧曲線が示す意味を理解する 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月	第2章 気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> 気体の体積変化について理解する 一定量の気体について、状態方程式が成り立つことを理解する 理想気体と実在気体の違いについて理解する 	
6月	第3章 固体の構造	<ul style="list-style-type: none"> 構成粒子による結晶の種類と特徴を理解する 結晶格子について理解する 	
7月	第4章 溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> 固体及び気体についての溶解について理解する 希薄溶液の一般的な性質及びコロイド溶液についての性質を理解する 	
8月	第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学変化と熱・光エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応と熱の関係を表す熱化学方程式を理解する ヘスの法則及び結合エネルギーについて理解する 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
9月			
10月	第2章 化学反応と電気エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 電池の原理を理解し、代表的な電池について理解を深める 電気分解の量的関係を理解する 	
11月	第3章 反応速度	<ul style="list-style-type: none"> 反応の速さと、濃度や圧力、温度との関係について理解する 	
12月	第4章 化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> 化学平衡について理解し、これらの量的関係が、固有の定数にもとづいて説明されることを理解する 弱酸・弱塩基の電離や塩の加水分解にも化学平衡が応用できることを理解する 	
1月	第3部 無機物質 第1章 非金属元素と周期表	<ul style="list-style-type: none"> 元素の分類を周期的に理解する 金属以外の単体や化合物について、製法や性質、用途などを理解する 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
2月			
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	地学基礎	2	2	地学基礎（東京書籍）	スクエア最新図説地学 四訂版 （第一学習社） ニューサポート地学基礎 （東京書籍）

到達目標	地球や地球を取り巻く環境への関心を日常生活や社会との関連を通して高める。また、実習や観察などを通して、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	身の回りの地学的な事物・現象に関心をもたせ、主体的、積極的にかかわらせる中で、問題を見いだす力や科学的な思考力、表現力を育成する。また、季節や地域に根差した視点での観察や変化の追跡などを通して、地球上の諸現象を、様々な時間的スケールと空間的広がりの中でとらえさせる。さらに、地球や地球を取り巻く環境に対する興味・関心を高めることができるように配慮する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月 5月 6月 7月	1 私たちの宇宙の進化 2 地球の変遷と生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> ・銀河系と宇宙 (銀河系の構造, 銀河の分布, 膨張する宇宙, 宇宙の誕生) ・太陽の概観 (太陽の表面, 太陽活動とエネルギー) ・太陽と恒星 (星の明るさ, 星の色, 太陽の誕生と進化) ・太陽系の天体 (太陽系の姿, 惑星の特徴, 太陽系の小天体, 惑星の誕生) ・地球の歴史の組み立て ・堆積岩の形成 (堆積岩の分類, 地層, 地質構造) ・変成岩の形成 (広域変成作用, 接触変成作用) 	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
8月 9月 10月 11月 12月	3 私たちの地球	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の概観 (地球の形, 重力, 地球内部の熱) ・地球の内部構造 (地震波の性質, 固体地球の層構造, 走時曲線, アイソスタシー) ・プレートと地球の活動 (リソスフェアとアセノスフェア, プレーートの分布, 境界) ・地震 (地震の発生と断層, 震度とマグニチュード) ・火山活動と火成岩の形成 (噴火の形式, 火山の分布, 火成岩の産状と分類) ・地球環境と人類 (地震災害と防災, 火山災害と防災, 人間生活と地球環境の変化) 	
1月 2月 3月	3 私たちの地球	<ul style="list-style-type: none"> ・大気圏 (大気圏の構造, 対流圏の気象, 水の状態変化) ・地球のエネルギー収支 (太陽放射と地球放射, 温室効果, 大気の大循環, 海水の循環) ・日本の気象 (冬から春の気象, 夏から秋の気象) 	

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	物理	4	3	物理（東京書籍）	リードα 物理基礎・物理 （数研出版）

到達目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てる。また、物理の基本的な概念や原理・法則を理解させることによって、科学的な自然観を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	物理的な事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する科学的な態度を身に付けるために、演示実験や生徒実験を多く取り入れる。また、日常生活で体験することとの関連する具体例を示すことにより、生徒の理解の助けとなるよう努める。基本的な概念や原理・法則が理解できた段階で、徹底的な演習により、その定着を図る。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	波動	屈折、音波、光波	定期考査 出席状況 授業への取り組み 宿題・提出物
5月	運動量の保存	運動量と力積、運動量保存、反発係数	
6月	円運動と万有引力	等速円運動、慣性力、単振動、万有引力	
7月	熱力学	物質の状態 気体の法則と気体分子の運動、気体の内部エネルギーと比熱	
8月	電流と磁場	磁場、電流の作る磁場、電流が磁場から受ける力	
9月	電磁誘導と電磁波	ローレンツ力	
10月	静電気・電流・磁場・交流	電磁誘導の法則、交流の発生、インダクタンス、交流回路、電磁波	
11月	原子	電子と光、原子の構造、原子核と素粒子	
12月	課題研究	問題演習（物理基礎の内容も含めて）	
1月	課題研究	問題研究	
2月			
3月			

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	化学	3	3年	新版 化学	セミナー 化学基礎+化学

到達目標	化学的な事物・現象についての観察・実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	①日常生活と関係の深い食品や衣料、プラスチック、金属、セラミックスを観察、実験などを通して探究し、それらの性質や反応を理解させ、身のまわりの物質について科学的な見方ができるようにする。 ②生命体を構成する物質、生命現象と関係する化学反応、医薬品や肥料を観察、実験などを通して探究し、それらの性質や利用について理解し、化学の成果が日常的に役立っていることを認識する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	第2節 典型金属元素の単体とその化合物	・非属元素の単体と化合物について、その製法や性質、用途などを学習し理解する	定期考査
5月	第3節 遷移元素の単体とその化合物	・遷移元素の単体と化合物について、その製法や性質、用途などを学習し理解する	出席状況 授業(講義)への取組み 授業(実験)への取組み
6月	第IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と構造	・有機化合物の一般的な特徴や分類について理解する	宿題・提出物
7月	第2節 脂肪族炭化水素	・炭素原子間の結合様式によって炭化水素を分類し、その製法や性質、用途などを学習し理解する	
8月	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	・有機化合物を官能基により分類し、その製法や性質、用途などを学習し理解する	定期考査
9月	第4節 芳香族化合物	・芳香族化合物について、その製法や性質、用途などを学習し理解する	出席状況 授業(講義)への取組み 授業(実験)への取組み
10月	第5節 有機化合物と人間生活		
10月	第V章 高分子化合物 第1節 合成高分子化合物	・生活に必要な各種製品の素材となる合成樹脂やゴムについて理解する	宿題・提出物
11月	第2節 天然高分子化合物	・炭水化物について、分類・特徴・構造・所在などを理解する	
11月	第3節 高分子化合物と人間生活	・タンパク質の構成単位であるアミノ酸について性質や分子の構造を理解する	
12月	センター対策	・電気分解・金属イオンの分離等の復習	
1月	課題実験	実験①合成染料の合成および染色	出席状況
2月		実験②合成繊維(ナイロン・レーヨン)の合成	授業(実験)への取組み
3月		実験③アミノ酸およびタンパク質の性質	宿題・提出物

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	化学	3	3年	新版 化学	セミナー 化学基礎+化学

到達目標	化学的な事物・現象についての観察・実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点)	①日常生活と関係の深い食品や衣料、プラスチック、金属、セラミックスを観察、実験などを通して探究し、それらの性質や反応を理解させ、身のまわりの物質について科学的な見方ができるようにする。 ②生命体を構成する物質、生命現象と関係する化学反応、医薬品や肥料を観察、実験などを通して探究し、それらの性質や利用について理解し、化学の成果が日常的に役立っていることを認識する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月	第2節 典型金属元素の単体とその化合物	・非属元素の単体と化合物について、その製法や性質、用途などを学習し理解する	定期考査
5月	第3節 遷移元素の単体とその化合物	・遷移元素の単体と化合物について、その製法や性質、用途などを学習し理解する	出席状況 授業(講義)への取組み 授業(実験)への取組み
6月	第IV章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と構造	・有機化合物の一般的な特徴や分類について理解する	宿題・提出物
7月	第2節 脂肪族炭化水素	・炭素原子間の結合様式によって炭化水素を分類し、その製法や性質、用途などを学習し理解する	
8月	第3節 酸素を含む脂肪族化合物	・有機化合物を官能基により分類し、その製法や性質、用途などを学習し理解する	定期考査
9月	第4節 芳香族化合物	・芳香族化合物について、その製法や性質、用途などを学習し理解する	出席状況 授業(講義)への取組み 授業(実験)への取組み
10月	第5節 有機化合物と人間生活		
10月	第V章 高分子化合物 第1節 合成高分子化合物	・生活に必要な各種製品の素材となる合成樹やゴムについて理解する	宿題・提出物
11月	第2節 天然高分子化合物	・おもな食品と衣料について、化学的な性質を学習する	
11月	第3節 高分子化合物と人間生活	・炭水化物について、分類・特徴・構造・所在などを理解する	
12月	センター対策	・タンパク質の構成単位であるアミノ酸について性質や分子の構造を理解する	
12月		・電気分解・金属イオンの分離等の復習	
1月	課題実験	実験①合成染料の合成および染色	出席状況
2月		実験②合成繊維（ナイロン・レーヨン）の合成	授業(実験)への取組み
3月		実験③アミノ酸およびタンパク質の性質	宿題・提出物

平成28年度 指導と評価の年間計画（大阪府立桜塚高等学校）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	生物	4	3年	数研出版 生物	浜島 ニューステージ新生物図表 数研出版 リードα生物基礎＋生物

到達目標	<p>1 さまざまな事例を通して、自然と生物に対して関心を持ち、理解を深める。</p> <p>2 観察や実験を通して探究する能力と科学的に考える態度を身につける。</p> <p>3 基本的な内容を確実に理解し、発展的問題の解決能力を養う。</p>
到達目標に向けての具体的な取組	<p>自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する科学的な態度を身に付けるために、実物の観察や映像メディアを多く取り入れる。また、日常生活で体験することとの関連する具体例を示すことにより、生徒の理解の助けとなるよう努める。自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識として身に付くよう図る。</p>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法
4月 5月 6月 7月	第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子 第2章 代謝 第3章 遺伝情報の発現	<p>タンパク質分子の構造や細胞内部の微細構造をはじめ、細胞を構成するさまざまな分子の働きについて理解させる。</p> <p>呼吸や光合成のしくみをエネルギー変換の観点から理解させる。また、タンパク質の構成成分であるアミノ酸などの、窒素を含む化合物を合成する過程についても理解させる。</p> <p>遺伝情報の発現とそのしくみ、遺伝情報の変化による形質への影響とゲノムの多様性について理解させる。また、発展著しい遺伝子を扱った技術についても理解させる。</p>	<p>定期考査</p> <p>出席状況</p> <p>授業への取り組み</p> <p>宿題・提出物</p>
8月 9月 10月 11月 12月	第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生 第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答 第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統	<p>生殖によって多様な遺伝的組み合わせが生じるしくみ、生物の初期発生の過程とそこで見られる細胞間の相互作用、その過程で発現する遺伝子とその発現を調節している物質について理解させる。</p> <p>神経系における情報伝達のしくみや、受け取った情報をもとにどのような行動が現れるのかを理解させる</p> <p>植物が環境からどのように刺激を受け取り、それに対してどのような反応が現れるのかを理解させる。また、植物の成長過程ではたらく物質にはどのようなものがあるのかについても理解させる。</p> <p>生態系の中で、多様な生物が共存しているようすやそのしくみを理解させる。さらに、近年重要性がさげばれている生物多様性とその保全について考えさせる。</p> <p>地球上に生命が誕生して以来、生物がどのような道筋をたどって現在のよう生物の世界ができてきたのかを理解させる。また進化のしくみについても理解させる。</p> <p>多様な生物をどのように分類できるかについて理解させる。また、近年 DNA の塩基配列などを比較することによって得られた生物の系統についての新しい知見についても理解させる。</p>	<p>定期考査</p> <p>出席状況</p> <p>授業への取り組み</p> <p>宿題・提出物</p>
1月 2月 3月	まとめ	<p>1年間の学習についてまとめ、生物を総合的に考え、解決できる力を身につけさせる。</p>	<p>定期考査</p> <p>出席状況</p> <p>授業への取り組み</p> <p>宿題・提出物</p>